

参 考 资 料

●主な観光資源(自然公園)

区分	公園名	概要
国立公園	阿寒摩周国立公園	昭和9年指定。屈斜路湖・阿寒湖・摩周湖などの雄大なカルデラ湖を中心に、雄阿寒岳・雌阿寒岳などがそびえ、森と湖と火山のおりなす北方的な原始景観を誇る。世界一といわれるほどの透明度を誇る摩周湖は神秘的な湖といわれ、また、ラムサール条約に登録されている阿寒湖のマリモは国内で唯一の生育地として特別天然記念物に指定されている。 平成29年8月、「阿寒国立公園」から名称変更され、神の子池などを含む区域に拡張された。
	大雪山国立公園	昭和9年指定。北海道の最高峰・旭岳(2,290m)を主峰とする大雪連峰及び十勝連峰・石狩山群などを含む北海道の屋根ともいわれる山岳公園で、わが国最大の面積を誇る。柱状節理の断崖がそそり立つ層雲峡や天然湖である然別湖などすぐれた景勝地が多く、温泉も各地に点在している。
	支笏洞爺国立公園	昭和24年指定。支笏湖・洞爺湖の2大カルデラをはじめ、現在も活動中である有珠山・樺前山、美しい円錐形の山容で蝦夷富士と呼ばれる羊蹄山、登別地獄谷をはじめ各所で湧出する温泉など、火山によって生じる様々な地形や現象に身近にふれることができる。新千歳空港や札幌、苫小牧、室蘭などの都市からも近いことから、道内で一番利用者が多い。
	知床国立公園	昭和39年指定。北海道の東北端、オホーツク海に向かって細長く伸びる知床半島は、日本に残された最後の原生地域ともいわれ、険しい連峰と奥深い原生林、海蝕崖による豪壮な海岸風景などの景観と、海岸・草原・森林・河川・湖沼・高山などのさまざまな環境の中に原生的で多様な生態系が一地域にまとまっているのが特徴。
	利尻礼文サロベツ国立公園	昭和49年指定。日本最北に位置する自然公園で、利尻富士と呼ばれる美しい利尻山を擁する利尻島、高山植物の宝庫・礼文島、砂丘列の発達した抜海・稚咲内海岸、サロベツ川流域に形成されラムサール条約に登録されている広大なサロベツ原野など変化に富む景観を誇り、また、国内有数の渡り鳥の中継地としても知られている。
	釧路湿原国立公園	昭和62年指定。市街地に接して広がる湿原を主体とした世界でもまれな公園。その大部分はヨシ草原とハンノキ林などからなる低層湿原で、蛇行する原始河川などとあまって広大な水平的景観を呈している。特別天然記念物のタンチョウなど貴重な動植物の生息・生育地でもあり、湿原の主要部は「ラムサール条約」の登録湿地に指定され、国際的にも高く評価されている。
	網走国定公園	昭和33年指定。網走を中心とするオホーツク海岸とサロマ湖・能取湖・網走湖・瀧沸湖・藻琴湖などの7つの海跡湖からなっており、起伏の少ない平地風景が特色。海岸線の砂丘に広がる原生花園や冬のオホーツク海の流水、春秋の渡り鳥など季節ごとに特徴的な景観を呈している。なお、瀧沸湖はラムサール条約の登録湿地になっている。
国定公園	大沼国定公園	昭和33年指定。北海道の玄関・函館市の北方に位置し、駒ヶ岳を中心にして大沼などの湖沼を含み、北海道には珍しい繊細な箱庭的風景が特色。大沼・小沼・葦菜沼の3湖は駒ヶ岳の噴火によって生まれた湖で、大沼は駒ヶ岳を背景として大小百数十の小島を浮かべ、「湖の松島」ともいわれる美しい風景を展開している。
	ニセコ積丹小樽海岸国定公園	昭和38年指定。1,000m級の山々がそびえるニセコ連峰と雷電海岸、積丹半島から小樽に至る海岸を含む海陸にわたる公園で、ニセコアンヌプリ・チセヌプリ・目国内岳などのすぐれた山岳景観と、海蝕崖の連続する豪壮な海岸風景が特色。また、道内の公園で唯一、海中公園地区が指定されている。
	日高山脈襟裳国定公園	昭和56年指定。北海道中央南部を南北約150kmにわたって走る峻険かつ自然性の高い日高山脈を中心に、その山系が南に伸びて太平洋に没する襟裳岬の海岸景観などからなる、わが国最大の国定公園。アポイ岳は特異な地質による固有植物が多く、標高が低いにもかかわらず高山植物の宝庫といわれている。
	暑寒別天売焼尻国定公園	平成2年指定。暑寒別岳を主峰とする山岳・渓谷・山地型湿原と雄冬岬・送毛・濃屋の海蝕海岸の地域及び日本海に浮かぶ天売・焼尻両島の地域からなる、自然性の高い変化に富んだ景観が特色。なお、暑寒別岳の東側斜面に広がる雨竜沼湿原は、「ラムサール条約」の登録湿地に指定されている。
	厚岸霧多布昆布森国定公園	令和3年指定。道内での新たな国定公園の指定は、平成2年の暑寒別天売焼尻国定公園の指定以来約30年ぶり。別寒辺牛湿原と霧多布湿原の2つの大きな湿原などからなる公園で、霧多布湿原は泥炭形成植物群落として国の天然記念物に指定されており、厚岸湖とともに「ラムサール条約」の登録湿地にも指定されている。
	富良野芦別道立自然公園	昭和30年指定。北海道中央部の夕張山系を中心に、周辺に点在する桂沢湖・シューパロ湖・野花南湖などの湖沼を主な区域とし、秀麗な山岳と森閑とした湖沼を特徴とする北国らしい景観を誇る。ユウバリソウやユウバリコザクラなどの固有種をはじめとする夕張岳の高山植物群落は、特異な地質構造とともに国の天然記念物に指定されている。
	樽山道立自然公園	昭和35年指定。渡島半島西海岸沿いに点在する地域と奥尻島全域からなる公園で、日本海の強風と波浪などによって形成された海蝕崖と海岸段丘が連続し、勇壮な岩石海岸地形となっている。また、夷王山や鷗島地区に代表されるように、北海道の文化の黎明期に造られた社寺・城跡・墳墓などが点在し、自然と文化が共存する北海道ではまれな景観を有している。
道立自然公園	恵山道立自然公園	昭和36年指定。渡島半島の東南海岸部に位置する公園で、雄大な鐘状火山である恵山と亀田半島の最高峰である横津岳を中心に高山植物群落、太平洋と津軽海峡の波浪を受けて形成された海蝕崖や奇岩など、変化に富んだ景観を觀賞するのが特徴。また、火山・海岸・渓谷と異なった地形にそれぞれ利用拠点となる温泉地を有し、保養・自然探勝・登山など多目的な公園利用がなされている。
	野付風連道立自然公園	昭和37年指定。雄大な根釧台地の水平景観を背景とし、ラムサール条約に登録されている野付半島・風連湖を中心に、海跡湖・砂丘やそれを取りまく森林・湿原などからなる道東らしい風景が特色。海岸湿原・湖沼群には湿生植物・野鳥が多数生育・生息しており、植生・野鳥観察のために訪れる人も多数見られる。
	松前矢越道立自然公園	昭和43年指定。渡島半島西南部の海岸地域と渡島大島・小島の二つの離島からなる公園で、切り立った海蝕崖と岩礁・奇岩・海蝕洞などからなる荒々しい海岸風景は、崖上に生育するツツジ・シクナゲなどの植物に彩られ、すぐれた景観を誇っている。また、大島・小島は海鳥の繁殖地で、国の天然記念物に指定されている。
	北オホーツク道立自然公園	昭和43年指定。北海道北部のオホーツク海に沿った公園で、クッチャロ湖・モケウニ沼などの天然湖沼が点在し、その周辺の湿原や海岸砂丘に広がるベニヤ原生花園など、広々とした北方的景観が特徴。また、コハクチョウなどの水鳥類の大規模な飛来地となっているクッチャロ湖は、「ラムサール条約」の登録湿地として指定されている。
	道立自然公園野幌森林公園	昭和43年指定。大都市近郊としてはまれな大面積の平地林からなる。比較的良好に残された天然林や草地・小川・池など多様な環境がそろうため、様々な野鳥・動物・昆虫・草花など四季折々の変化に富んだ自然を楽しむことができる。また、公園の一部は北海道開拓の歴史を記念する地区として指定され、百年記念塔・開拓記念館・開拓の村などの施設が設置されている。
	狩場茂津道立自然公園	昭和47年指定。道南の最高峰・狩場山を中心とする山岳地域と日本海沿岸の海蝕海岸からなる公園で、山間部には滝・溪流・瀬などが点在し、山麓部に広がる原野と周辺の森林が調和した神秘的で美しい景観をつくりあげている。また、海岸部は、激しい波浪により形成された急峻な海蝕崖・岩礁などにより、変化に富んだ景観となっている。
	朱鞠内道立自然公園	昭和49年指定。道北内陸部に位置する日本最大の人造湖・朱鞠内湖を中心とした公園で、日本最寒の地としても知られている。針広混交林からなる鬱蒼とした森林に囲まれた朱鞠内湖と宇津内湖は、複雑な入江と大小の島々を有し、もやにけむる湖面や湖岸に点在する立ち枯れた古木などが幽玄な雰囲気をもたらし、天然の湖をしのぐほどの原始的で神秘的な景観が特徴。
	天塩岳道立自然公園	昭和53年指定。標高1,558mの天塩岳を中心とする公園です。天塩岳・渚滑岳・ウエシシロ岳の山頂から山腹にかけて広がる区域一帯は人為的な影響が少なく、山麓地帯の高山植物群落や険しい谷間は、特に原始性に富んだ地域となっている。また、野生動物も数多く生息しており、登山や自然探勝の場として利用されている。
	斜里岳道立自然公園	昭和55年指定。円錐状の美しい火山である斜里岳の山頂部から山腹にかけての一角を区域とする。斜里岳は地域を代表するすぐれた山岳景観を有し、豊富な高山植物群落やユキウサギ・エゾリス・エゾモンガなどの小型の哺乳類のほか、ヒゲマやエゾシカなども多く生息するなど、動植物の宝庫ともいえる原始性豊かな自然を誇っている。

【北海道環境生活部環境局自然環境課、環境省北海道地方環境事務所】

●主な観光資源(ラムサール条約登録湿地)

名称	所在地	概要
釧路湿原	釧路市、釧路町、標茶町、鶴居村	昭和55年登録。面積7,863ha。高層湿原などの複合型の湿地、河川、湖沼。ヨシ・スゲ湿原、ミズゴケ湿原が発達する。タンチョウをはじめ、シマフクロウ、オジロワシ、オオワシ等の大型鳥類、ハクチョウ、ガンカモ類、その他の野鳥などが生息する。
クッチャロ湖	浜頓別町	平成元年登録。面積1,607ha。低層湿原、潟湖干潟のある汽水湖沼。周囲27km、海岸砂丘地で海と隔てられたオホーツク海岸線最大の海跡湖。冬季、シベリアから南下するハクチョウ類、ガンカモ類の最初の渡来地。
ウトナイ湖	苫小牧市	平成3年登録。面積510ha。低層湿原、湖沼、河川。太平洋に面する勇払原野に位置し、周囲17kmの淡水・海跡湖。湖岸畔にヨシ・スゲ・マコモ・フトイ等の挺水植物群が分布し、湖岸を落葉広葉樹が占める。渡り鳥のわが国有数の中継地で、ハクチョウ類、ガンカモ類が数千羽飛来し、確認されている鳥類は250種以上。
霧多布湿原	浜中町	平成5年登録。面積2,504ha。高層湿原などの複合型の湿地、河川、湖沼、藻場、汽水湖沼。ミズゴケ泥炭地を基盤とする高層湿原と沼。オオハクチョウ、ヒシクイ等が渡来し、タンチョウの繁殖地も分布。
厚岸湖・別寒辺牛湿原	厚岸町	平成5年登録。面積5,277ha。汽水湖沼、藻場、高層湿原などの複合型湿地、河川。厚岸湖とそれに流入する別寒辺川周辺のヨシ・スゲを中心とする低層湿原。ガンカモ、ハクチョウ類が渡来し、タンチョウの繁殖地も分布。
宮島沼	美唄市	平成14年登録。面積41ha。湖沼。石狩川の河跡湖沼群の一部で、見通しの良い浅い淡水湖沼の周辺には水田地帯が広がる。シベリア等北半球の繁殖地と日本国内の越冬地を往復するガンカモ類、ハクチョウ類の中継地として国際的に重要。特にマガンの渡来数は5万羽を超え、我が国で越冬するマガンのほとんどが宮島沼を中継地として利用。
雨竜沼湿原	雨竜町	平成17年登録。面積624ha。高層湿原。山間部に位置する山地型湿原であり、冬期に長期間堆積する積雪の融雪水や降水が池塘に貯留され、この水が湿原を涵養し、特異な湿原環境を維持している。我が国でも有数の面積規模を誇り、水生、湿原性、高山性の植物群が混交するなど自然性の高い優れた景観を呈している。
サロベツ原野	豊富町、幌延町	平成17年登録。面積2,560ha。高層湿原などの複合型の湿地、湖沼、河川。平地の湿原としてはきわめて発達した高層湿原であり、我が国で最大規模の面積を持つ。湖沼には多種の水生植物群落が発達する。また、ペンケ沼及びバンケ沼は水鳥の繁殖地、特に春秋のオオヒシクイやコハクチョウの東アジア地域個体群にとって重要な中継地となっている。
濤沸湖	網走市、小清水町	平成17年登録。面積900ha。低層湿原及び潟湖干潟のある汽水湖沼、藻場。砂嘴の発達で形成された海跡湖であり、一部海ともつながっている。そのため、藻場や塩性湿地も発達している。北海道では最大級の渡り鳥の中継地であり、ガンカモ類は毎年約6万羽以上の渡来が確認されているほか、オジロワシ・オオワシの越冬も確認されている。
阿寒湖	釧路市	平成17年登録。面積1,318ha。湖沼、河川。火山活動によってできたカルデラ湖。特別天然記念物に指定されているマリモが生育するほか、魚類ではイトウやヤチウグイ、貝類ではカワシンジュガイが生息する。
風蓮湖・春国岱	根室市、別海町	平成17年登録。面積6,139ha。低層湿原などの複合型の湿地、河川、湖沼、藻場。風蓮湖とオホーツク海に面した砂嘴の発達した海岸砂丘。シギ・チドリ類、オオハクチョウ、ヒシクイ等の渡り鳥の渡来地、中継地として利用され、約280種の鳥類の生息が確認されている。
野付半島・野付湾	別海町、標津町	平成17年登録。面積6,053ha。低層湿原、塩性湿地、藻場。日本最大の約28kmの砂嘴及び砂嘴に寄って形成された湾部を有する。湾内は、広大な干潟とアマモ場が形成され、甲殻類、貝類、魚類、ゴカイ類等が多く生息している。渡り鳥の中継地として、春秋には毎年2万羽以上が渡来する。
大沼	七飯町	平成24年登録。面積1,236ha。淡水湖、堰止湖群。北海道の南西部にある渡島半島のほぼ中央部に位置している。大沼、小沼、尊業沼等の湖で構成され、12月から3月まで全面結氷する。活火山の駒ヶ岳、砂原岳等の山々に囲まれ、多くの溶岩小丘が湖内にある変化に富んだ景観等から、1958年に北海道で最初の国定公園に指定された。

【北海道環境生活部環境局生物多様性保全課】

●主な観光資源(世界遺産、世界ジオパーク)

名称	登録時期	概要
知床世界自然遺産	平成17年7月	海と川と森が一体となった生態系の宝庫。知床半島は北海道の北東部に位置している。半島の中央から先端の知床岬、周囲の海域を含むこの地域は、流水が漂流する北半球の最も緯度の低い場所で、海と陸が影響しあう自然環境の仕組みが形成されている。シレットコスミレなどの絶滅危惧種を含む植物のほか、希少な海鳥やトドなどの海洋哺乳類が生息している。
洞爺湖有珠山ジオパーク	平成21年8月	系魚川ジオパーク、島原半島ジオパークとともに、日本で初めて「世界ジオパーク」として登録された。洞爺湖・有珠山周辺は、活火山による大地の移り変わりがふんだんに見られる貴重な場所であり、洞爺カルデラや有珠山などに代表される地質遺産や、雄大で美しい自然遺産、さらに縄文遺跡などの歴史遺産など、多くの見どころがある。
アポイ岳ジオパーク	平成27年9月	国内で8例目に登録された。日高東部のまち様似町は、世界でも類を見ない新鮮で多彩なかんらん岩から成る山々や渓谷、特殊な土壌条件などによって育まれた固有の高山植物群落、そして、海岸の特殊な地形が天然の良港となり古くから交易の拠点として栄えてきた歴史と文化を学び楽しむことができる。
北海道・北東北の縄文遺跡群	令和3年7月	縄文遺跡群が所在する北海道・北東北の地域(青森県、岩手県及び秋田県)は、世界自然遺産「白神山地」や「知床」など、美しい自然が今なお色濃く残る緑豊かなところである。この豊かな自然の恵みを受けながら1万年以上にわたり採集・漁労・狩猟により定住した縄文時代の人々の生活のと精神文化を今に伝える貴重な文化遺産であり、17の遺跡で構成されている。

【北海道環境生活部文化局文化振興課、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、日本ジオパーク委員会】

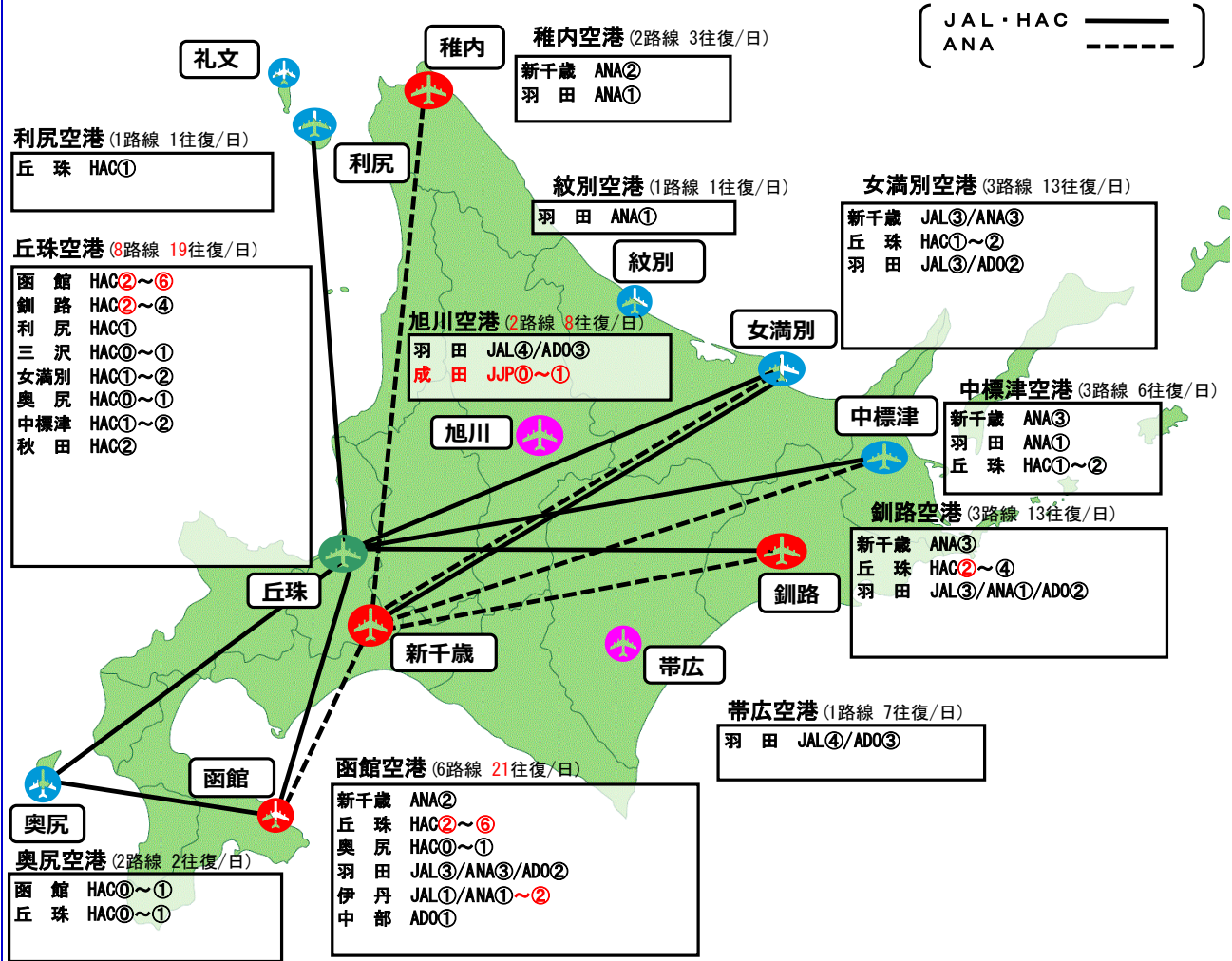
●主な観光資源(北海道遺産)

名 称	所 在 地	名 称	所 在 地
稚内港北防波堤ドーム	稚内市	登別温泉地獄谷	登別市
留萌のニシン街道(佐賀番屋、旧花田家番屋、岡田家と生活文化)	留萌地域	五稜郭と箱館戦争の遺構	函館市など
増毛の歴史的建物群(駅前歴史的建物群と増毛小学校)	増毛町	函館西部地区の街並み	函館市
空知の炭鉱関連施設と生活文化	空知地域	静内二十間道路の桜並木	新ひだか町
石狩川	流域市町村	モール温泉	音更町など
北海道大学札幌農学校第2農場	札幌市	野付半島と打瀬舟	別海町、標津町
小樽港と防波堤	小樽市	森林鉄道蒸気機関車「兩宮21号」	遠軽町
京極のふきだし湧水	京極町	オホーツク沿岸の古代遺跡群	網走地域
昭和新山国際雪合戦大会	壮瞥町	流水とガリンコ号	紋別市など
内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群	函館市、伊達市など	屯田兵村と兵屋	北海道各地
上ノ国の中世の館(たて)	上ノ国町	北海道の馬文化(ばん場、日高のサラブレッドなど)	北海道各地
福山(松前)城と寺町	松前町	アイヌ口承文芸	北海道各地
路面電車	函館市、札幌市	サケの文化	北海道各地
螺湾(らわん)フキ	足寄町	ジンギスカン	北海道各地
旧国鉄士幌線コンクリートアーチ橋梁群	上士幌町	利尻島の漁業遺産群と生活文化	利尻町
霧多布湿原	浜中町	旭川家具	旭川市
摩周湖	弟子屈町	三浦綾子記念文学館と外国樹種見本林	旭川市
根釧台地の格子状防風林	中標津町など	増毛山道と濃屋(ごきびる)山道	増毛町、石狩市
ワッカノ小清水原生花園	北見市、小清水町	北海道の集治監(樺戸、空知、釧路、網走、十勝)	月形町、三笠市、標茶町、網走市、帯広市
ピアソン記念館	北見市	小樽の鉄道遺産	小樽市
アイヌ語地名	北海道各地	大友亀太郎の事績と大友堀遺構	札幌市
アイヌ文様	北海道各地	パシフィック・ミュージック・フェスティバル	札幌市
北海道のラーメン	北海道各地	札幌軟石	札幌市
宗谷丘陵の周水河地形	稚内市	蝦夷三官寺(有珠善光寺、様似等澗院、厚岸国泰寺)	伊達市、様似町、厚岸町
天塩川	流域市町村	しかべ間歇泉	鹿部町
旭橋	旭川市	むかわ町穂別の古代物化石群	むかわ町
土の博物館「土の館」	上富良野町	北海道の簡易軌道	鶴居村など
雨竜沼湿原	雨竜町	千島桜	北海道各地
北海幹線用水路	空知地域	松浦武四郎による蝦夷地踏査の足跡	北海道各地
江別のれんが	江別市	江差追分	江差町
開拓史時代の洋風建築(時計台、豊平館、清華亭など)	札幌市	しもかわの循環型森林文化	下川町
札幌苗穂地区の工場・記念館群	札幌市	北海道米のルーツ「赤毛米」	北広島市
ニッカウスキー余市蒸溜所	余市町	今金・美利河(びりか)の金山遺跡	今金町
積丹半島と神威岬	積丹半島	仙台藩白老元陣屋	白老町
スキーとニセコ連峰	ニセコ地域	十勝三股の樹海	上士幌町
北限のブナ群	黒町内町	下の句かるた	北海道各地

【北海道総合政策部地域創生局地域政策課】

北海道の国内航空路線(令和5年12月1日~31日)

12月1日現在



道内空港発着便の運航予定便数			
	R5年11月	R5年12月	(前月比)
運航予定便数	14,173	14,550	377

新千歳空港発着便の旅客数実績			
	R元年10月	R5年10月	(コロナ前比)
提供座席数	2,124,084	2,172,525	2.3%
旅客数	1,767,244	1,777,308	0.6%
利用率	83.2%	81.8%	

(参考: 新千歳の航空概況速報)

	路線数	往復/日
道内	12	33
道外	35	222
計	47	255

* 往復便数は、路線毎に1日の最小~最大便数で整理

* JAL~日本航空、ANA~全日本空輸、ADO~エア・ドゥ、SKY~スカイマークエアライン、FDA~フジドリームエアラインズ、HAC~北海道エアシステム、APJ~ピーチエアラインズ、IBX~アイベックスエアラインズ、JJP~ジェットスター・ジャパン、SJO~スプリング・ジャパン

新千歳空港 (27路線 194往復/日)

函館	ANA②
釧路	ANA③
中標津	ANA③
女満別	JAL③/ANA③
稚内	ANA②
羽田	JAL⑬/ANA⑩/ADO⑫~⑭/SKY⑧
成田	ANA①/JJP⑦~⑨/APJ⑤~⑧/SJO②~⑤
伊丹	JAL④~⑦/ANA⑥~⑦
関西	JAL②/ANA④/JJP②/APJ⑤~⑧
中部	JAL③/ANA④/ADO①/SKY②/APJ②
青森	JAL③/ANA②
秋田	ANA②
花巻	JAL②
仙台	JAL⑤/ANA②/ADO③/APJ②/IBX③
福島	ANA①
山形	FDA①
茨城	SKY②
静岡	ANA①~①/FDA①~②
松本	FDA①~②
新潟	JAL②/ANA②
富山	ANA①
小松	ANA①
神戸	ANA①/ADO②/SKY③
岡山	ANA①
広島	JAL①/ANA①
福岡	JAL③/ANA①~②/ADO①/SKY②/APJ①
那覇	APJ①

●令和5年度地域政策推進事業（地域創生推進事業、地域政策コラボ事業） 観光関連抜粋

（単位：千円）

振興局	種別	事業名	事業期間 (年度)	事業概要	予算額
空知	創生	空知「食」と「ワイン」のブランド強化事業	R5 ~ R7	食やワインのブランド化や産地づくりを推進し、空知の主要な産業である食産業の振興を図る。	2,996
	創生	空知ゼロ炭観光推進事業	R5 ~ R7	環境に優しいキャンプ教室の開催により、ゼロカーボンを感じられる旅行を提案するとともに、空知管内の多様な食、観光資源の魅力を中心に一体的に情報発信するなど、マイクロツーリズムの一層の推進に向け取組の展開を図る。	2,512
	コラボ	北海道空知魅力発信事業	R2 ~ R6	「空知」ならではの観光・物産やライフスタイル、生活環境などに関する情報を総合的に発信し、空知地域に対する関心や理解度の向上、首都圏等での知名度向上を図り、人とモノの流れの創出を目指す。	4,334
石狩	創生	「いしかりstyle」プラスワン観光推進事業	R2 ~ R6	旅に「プラスワン」の価値を添える管内の周遊や体験型観光を推進し、多様化する観光ニーズに対応可能で誰もが旅を存分に楽しむことができる「いしかり観光スタイル」を国内外に積極的にPRする。	6,832
後志	創生	ShiriBeshi路線バス利用促進事業	R3 ~ R5	路線バスの需要拡大と持続的な利用定着を図るため、管内の住民や管外からの観光客に向けて、観光利用等のモデルルートや利用促進動画を作成し、動画視聴者へのキャンペーンも交えながらYouTubeやSNSで周知する。	1,333
	創生	ニセコ山系ロングトレイル普及促進事業	R4 ~ R6	多様な生物環境や希少な自然地形が分布するニセコ山系において、近年注目されているロングトレイルのコースを設定することで、国立公園の利用者増加と適正な管理を図るとともに、アドベンチャーツーリズムに適したコンテンツであることを活かし、夏季の後志観光を推進する。	1,952
	コラボ	ShiriBeshi持続可能な観光地づくり推進事業	R5 ~ R7	国際リゾートエリアである後志を持続可能な観光地としていくため、地域の「稼ぐ力」を引き出すDMOと連携し、環境負荷が低く、地域経済には高いインパクトを与え、ゼロカーボンにも資する旅行形態であるアドベンチャータラベル(AT)の推進等に取り組む。	5,437
胆振	コラボ	いぶり観光・教育旅行誘致促進事業	H28 ~ R6	縄文遺跡群やウポポイなどの「いぶり五大遺産」をはじめとした地域資源を活用しながら商品造成やプロモーションを行うことにより、インバウンドを含む観光客や道外からの教育旅行の誘致を図る。	5,994
	コラボ	いぶり五大遺産等地域資源魅力発信事業	R1 ~ R6	胆振地域への交流人口・関係人口の拡大を図るため、世界的な価値を有する「いぶり五大遺産」をはじめとした胆振管内の貴重な地域資源を関係団体等との連携により魅力発信するなど、地域創生に向けた取組を推進する。	3,374
日高	創生	7towns,colors HIDAKA観光知名度向上事業	R1 ~ R5	地域資源を活用した地域の魅力を体感できる観光メニューの開発や広域的な観光誘客に取り組むとともに、地域の魅力を道内外に向けて発信する。	1,330
	コラボ	オールひだか魅力発信推進事業	R5 ~ R8	新冠IC開通に向けた地域資源の活用促進や地域の魅力向上のため、関係機関等と連携し、観光入込客数及び交流人口の増加を図る。	5,628
渡島	コラボ	「みなみ北海道まるっと周遊」観光地域づくり強化事業	R2 ~ R6	世界文化遺産に登録された効果を魅力的な観光地づくりに活かすため、縄文遺跡群を活用した誘客促進の取組を展開する。縄文遺跡を訪れたいと潜在的に考えている人々を実行動に繋げるためのPRをする。	2,886
	コラボ	訪日外国人向け環境整備・集客プロモーション事業	R2 ~ R6	新型コロナウイルスの水際対策緩和の動きが加速している中で、観光施設等で受入準備を進めると共に、縄文文化を始めとした渡島の観光を商談会等でPRすることにより、多くの訪日外国人観光客を獲得する。	2,650

●令和5年度地域政策推進事業（地域創生推進事業、地域政策コラボ事業） 観光関連抜粋

（単位：千円）

振興局	種別	事業名	事業期間 (年度)	事業概要	予算額
檜山	コラボ	「ひやまの食と観光」魅力向上・創出事業	R4 ~ R8	檜山管内の食と観光産業の魅力向上を図るため、関係機関等と連携し、地域資源の魅力を最大限に活用した商品の磨き上げや販路拡大の支援、人材育成、SNS等を活用した情報発信やプロモーション等の実施により地域経済の活性化を図る。	5,087
	コラボ	「ひやまの島旅・船旅」魅力向上・発信事業	R5 ~ R7	檜山の貴重な観光資源である離島の魅力向上と情報発信に重点的に取り組むことで、檜山地域の認知度向上を図る。	2,166
上川	創生	大雪山協働型登山環境改善事業	R2 ~ R6	大雪山を中心とした貴重で豊かな自然を次世代に引き継ぐため、クラウドファンディングを活用しながら自然環境の保全や活用を図る取組を進める。	1,841
	創生	かみかわツーリズム誘客促進事業	R2 ~ R6	「食」や「食文化」の魅力発掘に加えて、上川北部の滞在人口を観光振興に結びつけるために、意見交換会やモニターツアーによる商品造成を行うとともに、プロモーションを通じて上川地域への誘客を図る。	3,410
留萌	創生	オロロンラインの持続可能な観光地づくり推進事業	R5 ~ R7	留萌管内の豊かな地域資源を活用したアドベンチャー旅行を推進し、道内外に積極的にPRすることにより交流人口の拡大を図るとともに、ガイド人材や観光の担い手確保にも取組み、持続可能な観光地づくりを推進する。	2,323
	創生	るもいファン拡大・魅力発信事業	R5 ~ R7	留萌地域の「もっているもの（食・自然・人）」をより多くの方に知っていただき、新たな「るもいファン」を獲得するため、SNSなど様々な手法による情報発信等を行い、交流・関係人口の創出・拡大を図る。	788
宗谷	コラボ	てっぺんSOYA de ポストコロナ観光地づくりプロジェクト	R3 ~ R5	「ポストコロナ」に対応し、宗谷が一体となった魅力ある観光地づくりを推進するため、アドベンチャーツーリズムなどの新たな旅行スタイルの誘客に向けた取組を実施する。	1,713
オホーツク	創生	知床自然遺産インバウンドおもてなしステップアップ事業	R3 ~ R5	世界自然遺産である知床において、外国人旅行者の受入体制を底上げするため、情報提供の英語化対応を進めるとともに地域一体の共通認識を醸成する。	474
	創生	オホーツク観光再生事業	R3 ~ R5	地域特性を活かした個人・団体旅行の誘致により、自然環境、地域産業などと調和した観光の確立及び地域の優位性を活かした観光地づくりを推進する。	1,918
十勝	創生	とちかち“いいね”魅力拡大事業	R3 ~ R5	新型コロナウイルスの影響により観光需要が低迷する中で旅先としての十勝の認知度向上及び誘客促進を図るため、SNS等を活用した情報発信やプロモーション、魅力的な観光地づくりに向けた取組を推進する。また、十勝の「食」の付加価値向上、ブランド化、の取組、十勝産品のPR・販路拡大を併せて進める中で十勝の認知度及び誘客推進の更なる向上を図る。	6,190
十勝	コラボ	交通モードの活用により地域の内外をつなぐ交流人口拡大推進事業	R3 ~ R5	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受ける十勝管内の公共交通の利用状況を把握した上で、人の動きを促す取組を主体とし、①域内間の交流増加（まちづくり）、②域外との交流増加（観光振興、移住定住）に向けた取組を実施することにより、関係・交流人口の増加と北海道十勝地域の活性化を目指す。	5,250
釧路	コラボ	くしろ誘客促進魅力発信事業	R4 ~ R6	国立公園やATなどの新たなコンテンツを活かした地域の魅力を広く発信し、新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に減少した観光入込客数の回復を図るとともに、道央圏に集中する観光客の誘客を促進する。	5,723
根室	創生	新型コロナウイルスを克服するための「ねむろの食と観光」競争力強化事業	R3 ~ R5	新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた人々の意識や行動の変化に対応した観光客の受入体制の整備やプロモーション及びねむろの食材の高度加工の支援を行うことにより、地域が一体となって新型コロナウイルスによる影響からのいち早い回復、更なる活性化に取り組む。	4,627

令和5年度観光局の施策体系

本道観光の現状と課題

- 安定した観光入込客数の増加には、災害や感染症、国際情勢などによる影響の縮小化が必要
- 観光消費単価向上には、モノ消費からコト消費への流れへの対応が必要
- ウィズコロナ・ポストコロナ時代を見据えた新たな旅行スタイルを定着させていくことが必要

北海道観光が将来的にめざす姿

- オンリーワン！自然・食・文化を活かした観光地
- いつでも！どこでも！何度でも！
- 誰もが安全・安心・快適に滞在
- 持続的な観光関連産業の発展

「観光立国北海道」の再構築

－ 目標 －

観光地づくり

誘客活動

受入体制整備

ウィズコロナ

ポストコロナ

新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた感染拡大防止と社会経済活動への影響の最小化

新型コロナウイルス感染症の収束を促した「新たな旅行」の推進

施策の展開方向

グリーン×セーフティ北海道
～「安全・安心」で選ばれる観光地～

量×質の追求
～満足度向上と運動した消費単価の向上～

旅行者比率のリバランス

～感染症の状況に応じた誘客対象の最適化～

新しい旅行スタイルの推進
～カーシェア、AT等新たな北海道観光価値の創出～

観光インフラの強靱化

～地域における観光インフラの充実～

(単位：千円)

事業名

○	① 地域の魅力を活かした観光地づくり推進事業費	180,980
○	(R4補正⑤) 北海道旅行割引事業費	20,979,265
○	・アドベンチャートラベル推進事業費(再掲)	83,880
○	・A.Tを活用した北海道観光の高付加価値化推進事業(再掲)	31,846
○	・誘客促進強化事業費(再掲)	505,776
○	・テーマ別観光推進事業(再掲)	56,756
○	・インバウンド再興事業(再掲)	52,009
○	・どさんこ旅サロンの運営・利用促進事業費(再掲)	12,720
○	・北海道観光誘致推進事業費(再掲)	135,525
○	・アウトドア活動振興環境整備事業費(再掲)	368
○	② 広域連携DMOとしてのデジタルマーケティング事業費	44,264
○	③ 観光統計調査事業費	5,696
○	・誘客促進強化事業費(再掲)	505,776
○	・どさんこ旅サロンの運営・利用促進事業費(再掲)	12,720
○	・地域の魅力を活かした観光地づくり推進事業費(再掲)	180,980
○	・広域観光周遊促進事業費(再掲)	108,520
○	・アドベンチャートラベル推進事業費(再掲)	83,880
○	・A.Tを活用した北海道観光の高付加価値化推進事業(再掲)	31,846
○	・ユニバーサルツーリズム推進事業費(再掲)	19,873
○	・北海道観光誘致推進事業費(再掲)	135,525
○	・アドベンチャートラベル・ワールドサミット2023開催推進費(再掲)	49,750
○	・北海道ロケーション誘致推進費(再掲)	274
○	④ 北海道教育旅行活性化事業費	23,240
○	⑤ 誘客促進強化事業費	505,776
○	⑥ どさんこ旅サロンの運営・利用促進事業費	12,720
○	⑦ 欧米人任用によるインバウンド強化事業費	1,644
○	⑧ 北海道ロケーション誘致推進費	274
○	⑨ テーマ別観光推進事業	56,756
○	⑩ インバウンド再興事業	52,009
○	・地域の魅力を活かした観光地づくり推進事業費(再掲)	180,980
○	・広域観光周遊促進事業費(再掲)	108,520
○	・アドベンチャートラベル推進事業費(再掲)	83,880
○	・A.Tを活用した北海道観光の高付加価値化推進事業(再掲)	31,846
○	・MICE誘致支援事業費(再掲)	33,022
○	・北海道観光誘致推進事業費(再掲)	135,525
○	・アドベンチャートラベル・ワールドサミット2023開催推進費(再掲)	49,750
○	(R4補正⑤) 北海道旅行割引事業費	20,979,265
○	⑪ アドベンチャートラベル推進事業費	83,880
○	⑫ MICE誘致支援事業費	33,022
○	⑬ アドベンチャートラベル・ワールドサミット2023開催推進費	49,750
○	⑭ アウトドア活動振興環境整備事業費	368
○	⑮ 新しいガイドの実現に向けた環境整備事業	28,878
○	⑯ A.Tを活用した北海道観光の高付加価値化推進事業	31,846
○	・地域の魅力を活かした観光地づくり推進事業費(再掲)	180,980
○	⑰ 広域観光周遊促進事業費	108,520
○	⑱ 観光人材確保・育成事業費	44,330
○	⑲ コニハ・サルトゥーリズム推進事業費	19,873
○	⑳ 北海道観光誘致推進事業費	135,525
○	㉑ 北海道さっぽろ「食と観光」情報館運営費	37,695
○	㉒ 住宅宿泊事業法関連事業費	10,435
○	㉓ 宿泊業環境整備緊急対策事業	1,095,787
○	・地域の魅力を活かした観光地づくり推進事業費(再掲)	180,980
○	・新しいガイドの実現に向けた環境整備事業(再掲)	28,878
○	・アドベンチャートラベル推進事業費(再掲)	83,880
○	・欧米人任用によるインバウンド強化事業費(再掲)	1,644

(単位：千円)

○	令和5年度観光局予算計上(経済対策等除く)	1,823,424
○	(観光局事業162,684 機構負担金1,660,740)	
○	※経済対策(宿泊業環境整備緊急対策事業)	1,095,787
○	※観光庁補助(北海道旅行割引事業費：繰越明許費分)	20,979,265

○ = 新規、拡充 ○ = 継続 ※量も合致する展開方向を本掲とし、その他は再掲とする。

北海道観光の現況 2023



北海道観光PRキャラクター キュンちゃん

発行日 2023年12月

作成 北海道経済部観光局観光振興課

〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目

電話 (011)206-6596 内線 26-591